



図書館だより

2022年
8月26日発行

秋草学園高等学校 図書館

夏休みが明け、2学期が始まりました。来月の桔梗祭に向けての準備が本格的に始まり忙しくなる時期でもありますので、体調管理をいつも以上に心がけましょう。今年の桔梗祭は3年ぶりに一般公開(9/18)も予定されており、クラスや部活動での企画も楽しみなものばかりです。図書委員会では、新たな企画として古雑誌市(9/18のみ)を開催します! 図書館で保管期間の過ぎた雑誌を無料で配布しますので足を運んでみてください。併せて、図書委員のおすすめ本紹介POPも掲示します。先生力作のPOPも見られるかも!?

第167回 直木賞受賞の窪美澄さんを読む!

先月、第167回芥川賞に高瀬隼子さんの『おいしいごはんが食べられますように』、直木賞に窪美澄さんの『夜に星を放つ』がそれぞれ選ばれました。図書館だよりで紹介した窪さんの作品が見事受賞し、嬉しい思いでいます。

窪さんは今回の受賞会見の中で『小説にしか解決できない心の穴というか、閉じることのできない心の穴というのが誰しもあるんじゃないかと思っています』とおっしゃっていました。本の持つ力を信じ、これからも新たな作品を生み出していく窪美澄さんをますます注目していきましょう!!

●窪美澄さんの作品を読んでみよう

913.6-7 『ゆるめるときも、すこやかなるときも』

窪美澄 || 著 集英社

12月がくると家具作り職人の吉晴の体にはある異変が起こる。その原因に気づきながら10年以上も放置してきたが、本橋桜子との出会いが吉晴の心を変えた。暴走しがちな桜子のまっすぐな思いに触れ、目をそらし続けた過去と向き合う覚悟が芽生える。桜子の人生もまた吉晴の出現によって大きく揺さぶられ変わり始める。

913.6-7 『晴天の迷いクジラ』

窪美澄 || 著 新潮社

行き場のない思いを抱え絶望の淵に立つ3人の男女。彼らが今までの生活を捨て、衝動的に向かったのは“湾に迷い込んだクジラ”がいる半島だった。3人はそこで偽りの家族を演じながら、迷子のクジラの行く末を見つめる。現実離れたその生活は生きる気力を失った彼らに不思議な安らぎと未来に繋がる変化をもたらす。

芥川賞を受賞した高瀬隼子さんの著書もこれから揃えていきます。お楽しみに! ※受賞作は所蔵あり



伊坂幸太郎さんの作品がハリウッドで映画化

数々の話題作を生み、文学賞に輝いてきた伊坂幸太郎さん。映画化された著書や翻訳され海外で出版された著書も多い人気作家さんですが、なんと著書『マリアビートル』がハリウッドで映画化されました! 主演はブラッド・ピット。邦題『ブレット・トレイン』で来月より公開です。

913.6-1 『マリアビートル』

伊坂 幸太郎 || 著 角川書店

殺し屋コンビ、息子の敵を討ちにくた父親、裏の組織で働く運のない男など、なぜか物騒な顔ぶれが揃ってしまった東京発 盛岡行の新幹線内では“まずい状況”が次々に起こっていた。絶体絶命の窮地から抜け出せる強者はいるのか!? スリリングな展開から目が離せません。

おすすめ 同シリーズの『グラスホッパー』を読んでおくと、より本作を楽しむことができます!



新着コーナーの気になる本

B913.6-7 『ただいま神様当番』

青山 美智子 || 著 宝島社

人生にお疲れ気味の主人公たちの腕に突如現れた“神様当番”の文字。文字を消す方法はただ1つ。神様の願いを叶えること。初めは自由奔放な神様に振り回される彼らだけ、次第に忘れかけていた大切な気持ちを思い出ししていく。涙がホロリと流れる温かな短編集。

914.6-7 『パリの空の下で、息子とぼくの3000日』

辻 仁成 || 著 マガジンハウス

パリ在住の作家 辻仁成さんがシングルファザーとして息子と歩んできた日々を綴ったエッセイ。心を閉ざした息子においしいごはんを作ることから始まった2人暮らし。時にぶつかりながら、思いを語り合い、互いが成長しながら家族の絆を深めているのが伝わってきます。

司書の今月はこの本読みました

先月発表された第167回直木賞の候補作に選ばれた深緑野分さんの『スタッフロール』(913.6-7 文藝春秋)は映画を愛する人たちの情熱がつまった物語でした。特殊造形師のマチルダとCGクリエイターのヴィヴ、ふたりの女性を主人公に、ふたつの国とふたつの時代の映画界の裏側が描かれています。映画の中で何よりも特殊効果というものに魅せられ、マチルダもヴィヴもその世界で働くという夢を叶えています。その日々は葛藤と苦悩の連続です。悔しい思いをたくさんしながらも情熱を持ち続けるふたりの姿に胸が熱くなりました。 【今井】